

黒毛和種高能力素牛を活用した 早期出荷技術の現地適応性

福岡県農林業総合試験場では、黒毛和種子牛を強化哺育後に粗飼料を多給して育成することにより、通常肥育（29 か月齢出荷）後の枝肉重量、ロース芯面積が良好となる高能力素牛生産技術を開発しました。この高能力素牛を活用することで肥育期間を短縮しても十分な出荷体重が期待できますが、その枝肉性状や現地での適応性が明確になっていませんでした。そこで、現地の様々な飼育管理体系のもとで哺育・育成された高能力素牛を肥育・早期出荷した場合の枝肉性状や現地適応性を検討しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 群飼（ロボット哺乳）、単飼（バケツ哺乳）等の異なる飼育管理体系の哺育・育成農家において、黒毛和種子牛を強化哺育した後に粗飼料を多給して哺育・育成を行った結果、哺育・育成期間（0～9 か月齢）の日増体量が 1.0kg/日、9 か月齢時の体重が 300kg 程度の優良な肥育素牛（高能力素牛）を生産できました。
2. 給与飼料を自家配合や購入配合を給与している異なる複数の肥育農家において、高能力素牛を通常の飼養管理体系で肥育した結果、26 か月齢時の体重が約 760kg に達する良好な発育性が得られました。
3. 平均出荷月齢 27.6 で早期出荷した枝肉の平均成績は、枝肉重量が 497kg、BMS No.が 6.4、ロース芯面積が 61cm²で、通常の 29 か月齢で出荷した場合と遜色ない結果でした。

表 1 高能力素牛の出荷枝肉成績（平成 29 年）

飼養管理体系		調査戸数	頭数	出荷月齢	枝肉重量 (kg)	BMS No.	ロース芯面積 (cm ²)	バラ厚 (cm)	皮下脂肪厚 (cm)
肥育方法	配合飼料								
群飼	購入	2	5	27.6	487	5.8	54.6	7.6	2.6
群飼	自家	2	4	27.5	512	7.0	71.8	8.1	2.1
単飼	自家	1	2	27.5	494	7.0	55.5	7.7	3.7
平均			11	27.6	497	6.4	61.0	7.8	2.6
参考（場成果）			5	28.9	520	5.6	63.0	8.1	3.3
参考（福岡県）			6133	—	496	6.5	60.2	7.9	2.6

☆活用面での留意点

1. 研究成果「肥育成績向上が期待できる黒毛和種高能力肥育素牛生産技術」に基づいた高能力素牛（高蛋白・低脂肪代用乳の哺乳より強化哺育（12 週齢時体重が約 120kg）した後に粗飼料を多給して育成（39 週齢時体重約 290kg）した黒毛和種子牛）を肥育することが基本です。
2. 詳しくは、福岡県農林業総合試験場畜産部大家畜チーム（TEL092-925-5232）にお問い合わせ下さい。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男）